



検査番号#: 9900001  
患者氏名: Report Sample  
患者の生年月日: Mar 9, 1960  
性別: F  
担当医師: NO PHYSICIAN

採取時刻: Not Given  
検体採取日: Dec 1, 2022  
Sample Type: Dry Blood Spot  
報告日: May 27, 2025

## 上昇した結果の概要

以下の結果は、プロファイルで検出された反応性が上昇した抗原の一覧です。すべての検査結果と各抗原のより詳細な説明は、IgG Food MAPの 結果のセクションからご覧いただけます。報告書に記載されている各値は、健康状態や環境全体との関連において考慮される必要があり、可能であれば資格のある医療従事者とご相談ください。

カラー キー 最小 (<=25TH) 低い (>25TH-50TH) 中程度 (>50TH-75TH) 高い (>75TH-95TH) 非常に高い (>95TH)

抗原名	結果	抗原名	結果
25パーセンタイル値	(患者値: MFI × 1000)	25パーセンタイル値	(患者値: MFI × 1000)

### 非常に高い

上昇した/非常に高い結果は検出されませんでした。

### 高い

上昇/高値の結果は検出されませんでした。



## IgG Food MAP結果の活用

本報告書に含まれる情報(結果および解説を含む)は、教育目的のみに提供されており、治療の推奨として解釈されるべきではありません。必要な治療については、医療提供者に相談することをお勧めします。本報告書および解説に関連する参考文献は、MosaicDX.com/Test/IgG-Food-MAPでご覧いただけます。

除去食は、臨床的な症状およびIgG Food MAPの結果に基づいて、特定の食品を一時的に食事から除去することで、食過敏症を特定し対処するために設計されています。この食事法は通常2~3か月続き、「準備」「除去」「回復」「再導入」の4つの柱で構成されており、各ステップが患者を導くために不可欠です。



### 準備

除去食の明確な開始日と終了日を設定し、患者に症状の記録、食事の計画、十分なカロリー摂取、有機食品の選択(可能な場合)、水分補給、十分な休息を促して、除去プロセスを最適化します。



### 除去

IgG Food MAPの結果に基づいて、高感受性および超高感受性に分類された食品を中心に、特定の食品を除去します。結果によっては、潜在的な反応を減らし、除去プロセスを合理化するために、反応を誘発するすべての食品、または反応性の高い食品を多く含むグループ全体からすべての食品を除去するを勧める医師もいるでしょう。



### 回復

消化酵素、塩酸(HCl)、胆汁などの必須の消化成分を補うことで消化管の健康をサポートし、プレバイオティクスとプロバイオティクスによる腸内再定着を行い、L-グルタミン、亜鉛カルノシン、特定の植物成分などの栄養素で腸粘膜の修復を行います。



### 再導入

IgG Food MAPの結果に基づいて、食品を段階的に再導入します。1回に1種類の食品を導入し、症状を観察し、詳細な食事記録を用いて反応を追跡し、それに応じて食事を調整します。症状が再発しなければ、その食品は食事に戻すことができます。再導入時に症状が出た場合は、再度その食品を除去し、症状が収ままで待ってから次の食品の再導入に進みます。

### サポートと情報の確認方法:



除去食における4つの柱を確認する

[MosaicDX.com/Resource/Elimination-Diet](https://MosaicDX.com/Resource/Elimination-Diet)



医療従事者ポータルを通じて臨床相談を予約する

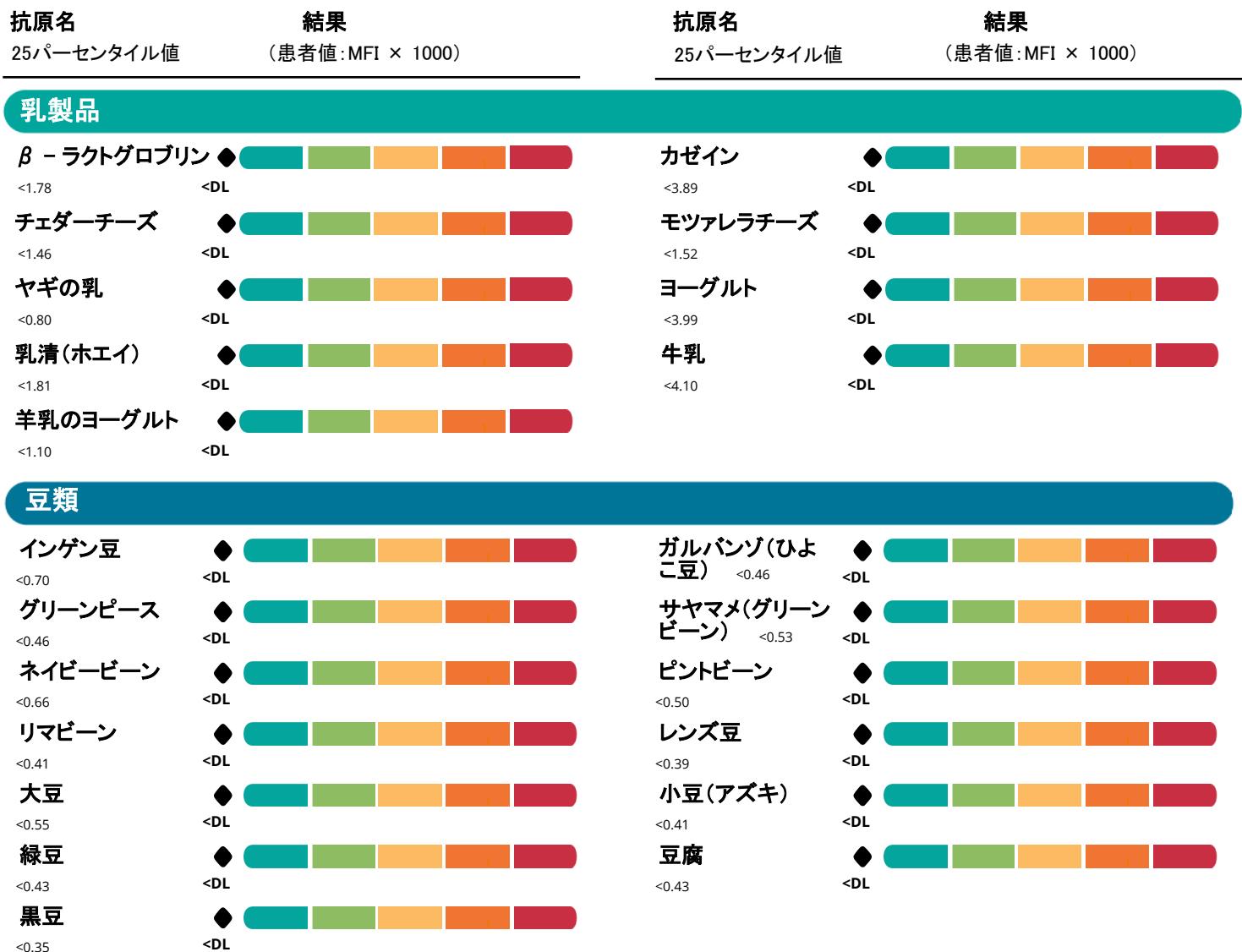
医療従事者専用: [MosaicDX.com/Portal](https://MosaicDX.com/Portal)



## IgG Food MAP Results

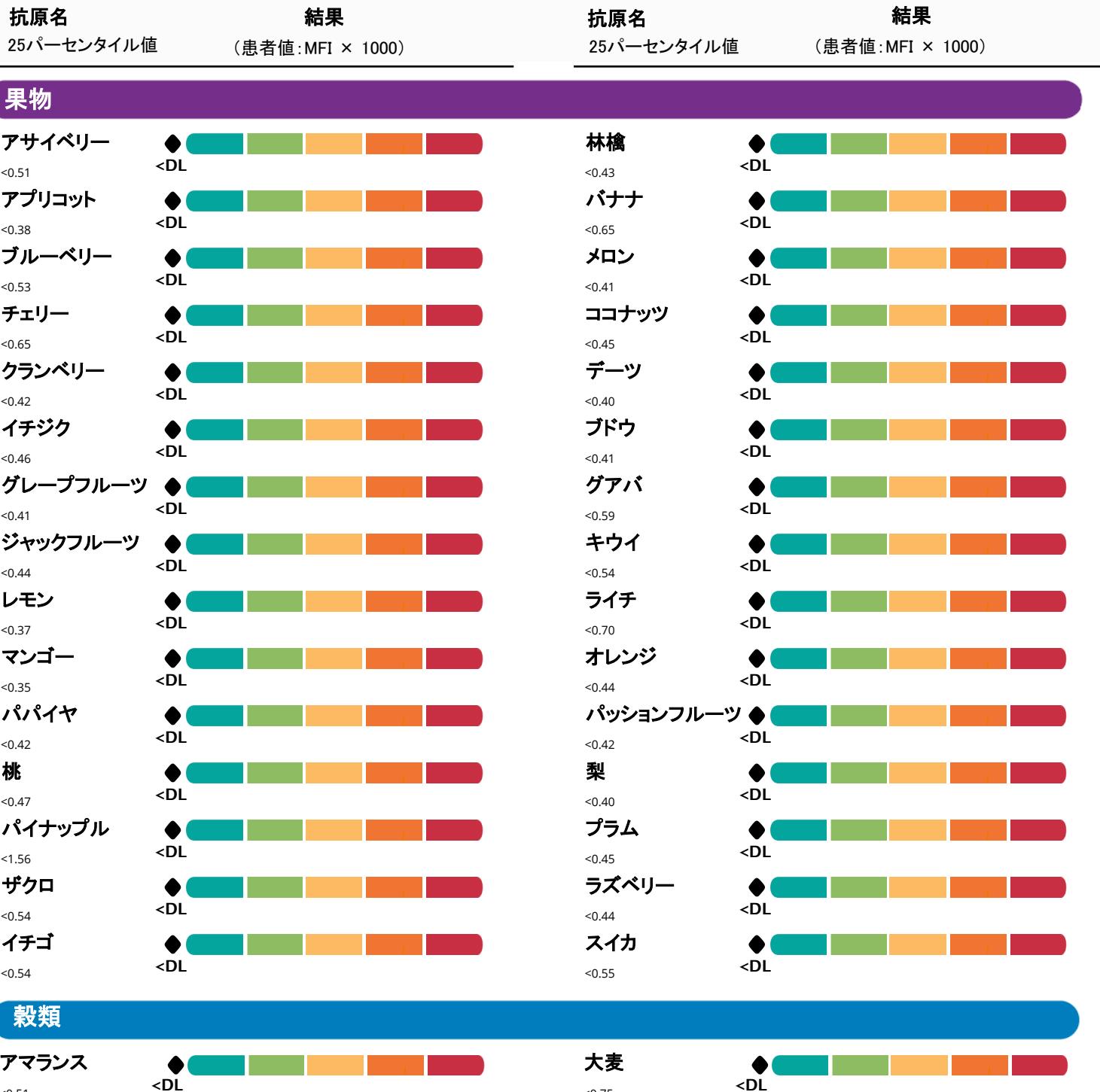
検査方法: xMAP™

カラー キー





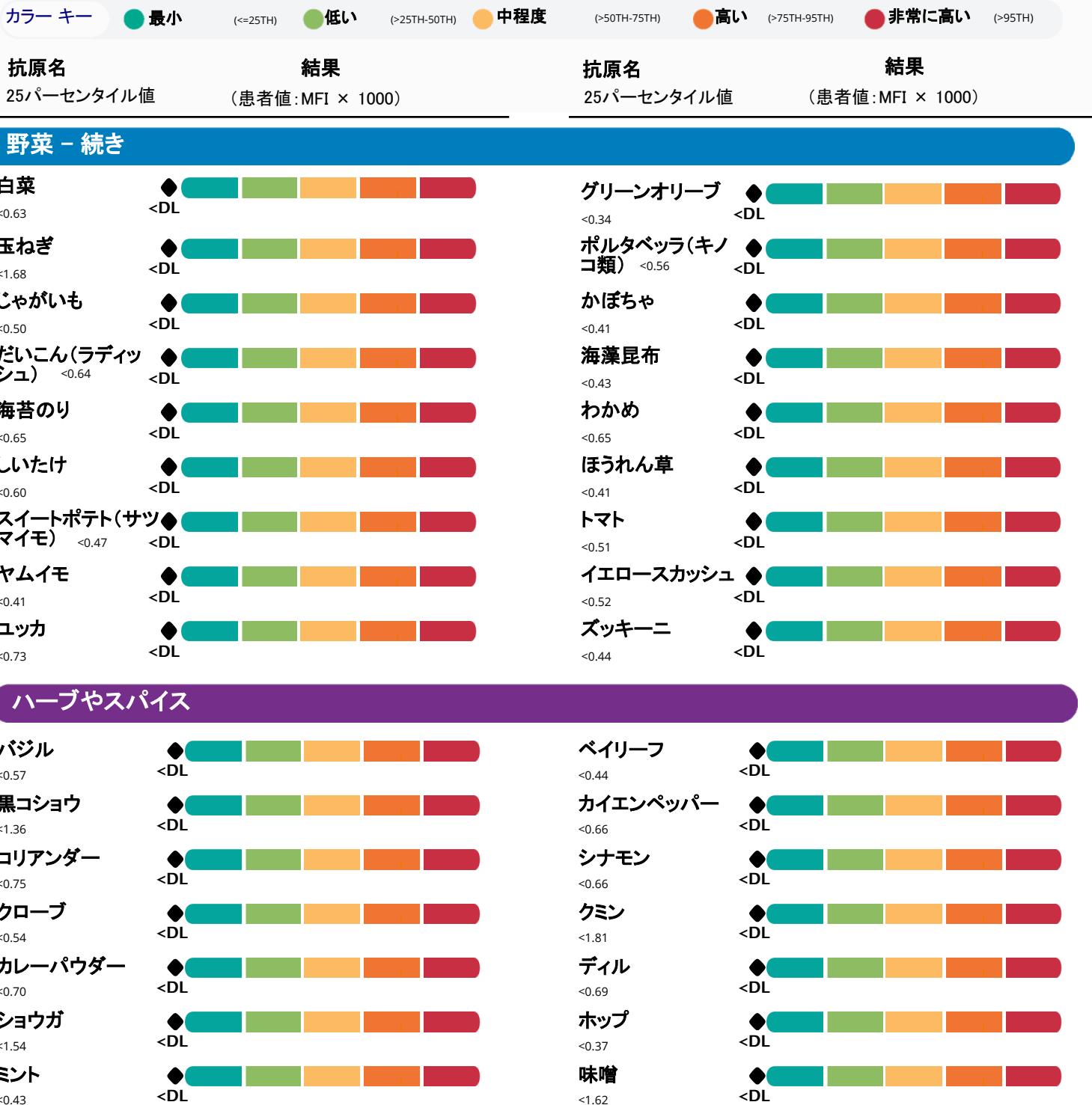
カラー キー    ● 最小 (<=25TH)    ● 低い (>25TH-50TH)    ● 中程度 (>50TH-75TH)    ● 高い (>75TH-95TH)    ● 非常に高い (>95TH)

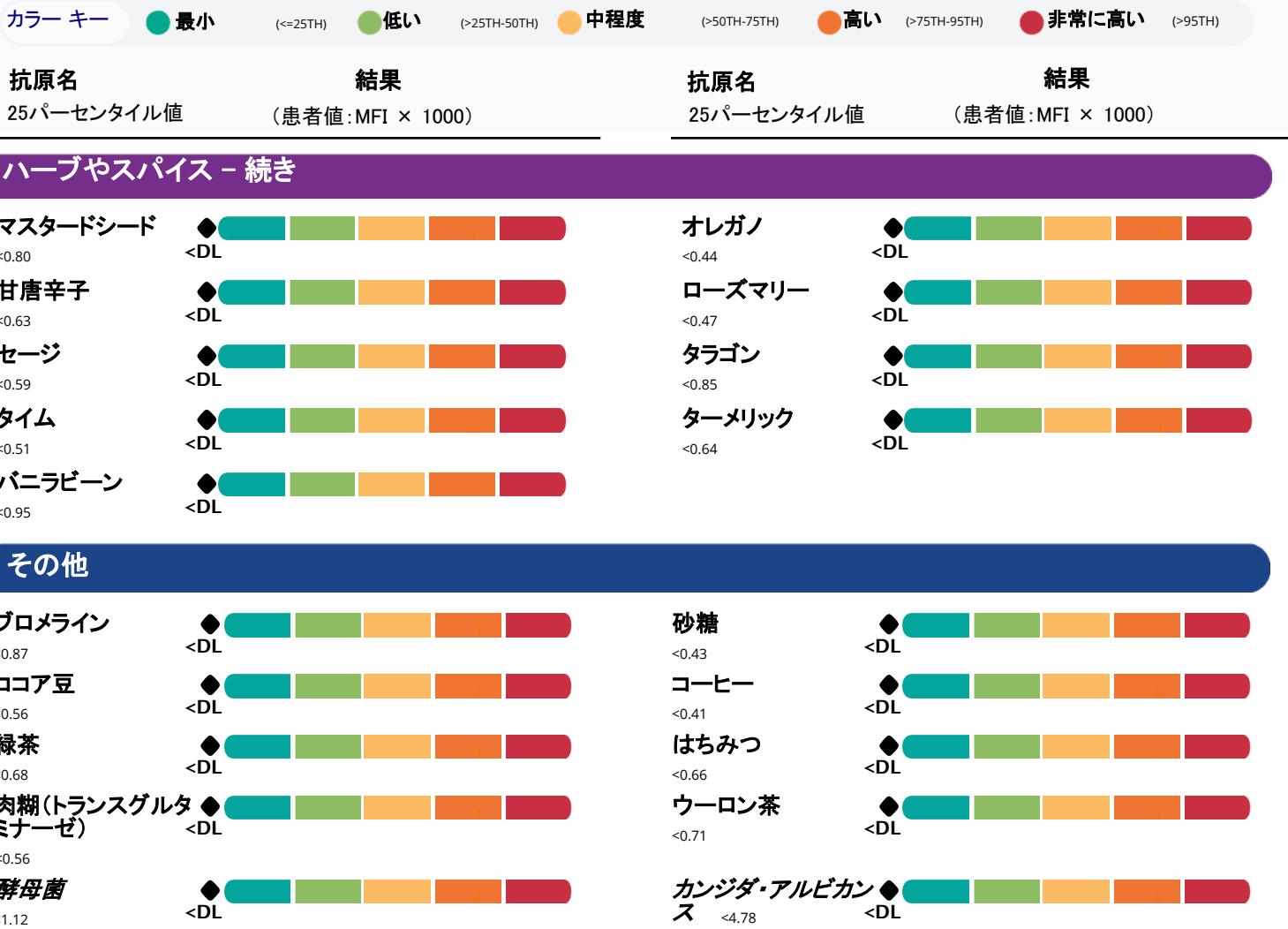












## 結果に関するコメント

IgG Food MAPは、190種類の食品とカンジダ・アルビカンスおよびサッカロマイセス・セレビシエ (*Saccharomyces cerevisiae*)に対するIgG免疫反応性を評価するために、食品由来の抗原を使用しています。患者の血清または乾燥血液スポット(DBS)サンプルに、190種類の食品それぞれから抽出したタンパク質が導入されます。検査報告書には、それらの特定の食品タンパク質に対するIgG抗体のレベルが示され、食品抗原と患者のIgG抗体との間に食品特異的結合が生じた場合、その結果は反応性スケールとの関係で、最小、低い、中程度、高い、または非常に高いとしてグラフ上に表示されます。

IgG Food MAPの結果を用いて除去食または排除食を構築する:IgG反応性食品に対する症候性反応は、特定の食品と関連付けることが困難です。反応性食品の一部または全部を除去する食事療法は症状を改善する可能性があり、完全除去食や要素別食事療法ほど難しいものではありません。食事から反応性食物を除去する際には、消化、皮膚の状態、エネルギーレベル、気分、痛みのレベルなどの変化を観察することが有用です。

除去食は症状の軽減や除去に役立ちますが、除去食の計画には、カロリー、マクロおよびミクロ栄養素の十分な摂取を含める必要があります。

この検査はIgGのみを評価するものです。IgEアレルギーを評価するものではありません。IgEアレルギーが疑われる場合は、特異的IgE検査が推奨されます。患者がIgEアレルギーを有する場合、IgG値に関係なく、その物質を食事から除去すべきでしょう。

IgGおよび食事介入に関する追加情報および参考文献については、[MosaicDX.com/Test/IgG-Food-MAP](http://MosaicDX.com/Test/IgG-Food-MAP)をご覧ください。

# IgG Food MAP の概要

## IgG Food MAPとは？なぜ食物過敏症を検査するのか？

Mosaic DiagnosticsのIgG Food MAPは、血清または乾燥血液スポット(DBS)を使用して、190種類の食品に加え、*Candida albicans*および*Saccharomyces cerevisiae*に対するIgG反応性を評価する検査です。

## なぜ食物過敏症を検査するのか？

IgG食物過敏症検査は、炎症反応を引き起こす可能性のある食品を特定するための簡単かつ効果的な方法です。提案される個別のローテーション／除去食は、一般的なアレルギー／過敏症の原因となるすべての食品を除去するよりも、簡便で実践しやすいアプローチを提供します。特定された食物過敏症に対処することは、慢性的な健康問題の原因となっていることが多いため、身体の治癒や原因不明の症状の緩和にとって重要です。

## 食物アレルギーと食物過敏症の違いは？

「食物アレルギー」と「食物過敏症」という言葉はしばしば同義で使われますが、実際には異なるものです。食物アレルギーは、特定の抗原に対してIgE抗体が産生される免疫反応によるものです。IgE媒介性反応は即時型(即時型過敏症またはI型過敏症)であり、軽度(例：じんましん、かゆみ、消化不良)から重度(例：口腔粘膜の腫れ)まで、さらには命に関わるアナフィラキシーまでさまざまな症状を引き起こす可能性があります。

食物過敏症は、特定の食品によって引き起こされるさまざまな症状を指し、通常はそれほど深刻ではなく、生命に関わるものではありません。一般的な症状としては、頭痛、消化不良、皮膚発疹、倦怠感などがあります。食物過敏症が発生する一つの提案されたメカニズムは、特定の食品に対するIgG抗体の産生であり、これは検査で評価することができます。

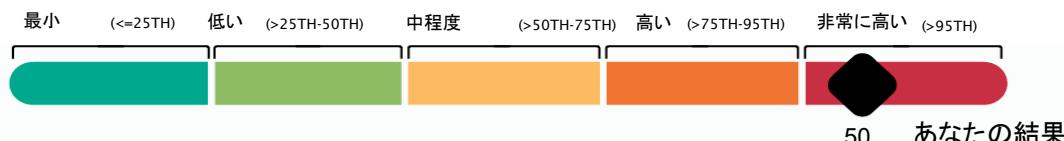
最後に、「食物不耐症」という用語は、特定の食品成分の消化または代謝が困難であることに起因する症状(吐き気、腹部膨満感、ガス、または下痢など)を表すために、臨床的にも使用されています。食物不耐症の代表的な例には、ラクターゼ酵素欠乏による乳糖不耐症、果糖の吸収障害による果糖不耐症、ヒスタミンや亜硫酸塩などの食品添加物・保存料に対する反応などがあります。

## 検査プラットフォーム

MosaicDXでは、xMAP™ ELISA技術を使用しています。この技術により、大量の検体を必要とせずにより多くの情報が得られ、従来のELISA検査よりも感度と特異性が向上し、読み取り時間が短縮され、プラスチック廃棄物の削減にもつながります。

## 基準範囲の説明と図示

私たちは、広範な世界人口を代表する79,000件のサンプルを分析し、定量的な反応を示すものから新しい基準範囲を設定しました。<DLの結果は、検出限界未満の結果を意味します。基準範囲は定期的に更新されます。



### 最小

最小反応性は、当社の基準集団において、その物質に対する25パーセンタイル以下の反応性として計算されます。

### 低い

低反応性は、当社の基準集団において、その物質に対する25パーセンタイル超から50パーセンタイル以下の反応性として計算されます。

### 中程度

中等度反応性は、当社の基準集団において、その物質に対する50パーセンタイル超から75パーセンタイル以下の反応性として計算されます。

### 高い

高反応性は、当社の基準集団において、その物質に対する75パーセンタイル超から95パーセンタイル以下の反応性として計算されます。

### 非常に高い

非常に高い反応性は、当社の基準集団において、その物質に対する95パーセンタイル超の反応性として計算されます。

# 反応性のまとめ

非常に高い

非常に高い値は検出されませんでした。

高い

高い値は検出されませんでした。

中程度

中程度の値は検出されませんでした。

低い

低値は検出されませんでした。



# IgG Food MAP

WITH CANDIDA + YEAST

Sean Agger PhD, MS, MBA, DABCC, DABMM, Lab Director | CLIA 17D0919496  
Mosaic Diagnostics | 9221 Quivira Road, Overland Park, KS 66215  
MosaicDX.com | © 2025 Mosaic Diagnostics

この検査は、Mosaic Diagnostic Laboratoryによって開発および性能が評価されています。  
本検査は、米国食品医薬品局(FDA)による承認または認可を受けていません。

